



平成 26 年 3 月 14 日
第 16 号 (春号)
南つくし野小学校
南つく蝶プロジェクト

蝶プロの今年度の活動も終わりました。ご参加、ご協力ありがとうございました。
3学期の活動を紹介します。

1月14日 エクセルで昆虫の絵を描こう

昆虫研究家の吉谷昭憲先生にエクセルで絵を描くコツを教わりました。
吉谷先生の出会ったおもしろい顔の虫の写真も見ました。

2月4日 顕微鏡で小さな生きものを観察しよう

校庭の水を採取して、水の中にある微生物を顕微鏡で観察しました。藻類やワムシを見ることができました。酵母の観察もしました。

3月4日 バタフライガーデンの準備をしよう

春に向けて、バタフライガーデンの観察と植物の名札を作りました。



1/14 昆虫の絵を描こう



2/4 微生物を見よう



3/4 読んだ本



3/4 花壇に名札を立てました。ほかにもスマレやミカンなどもあります。
春には芽も伸びてきます。ぜひ見てください。



『南つく蝶プロジェクト』で検索してね。 <http://butterflygarden.sunnyday.jp/>
カラーの通信、過去の活動報告やチョウレポートなどを公開しています。

さなぎから始まった蝶のおはなし

台所の引き出しを開けたらさなぎがあった！あまりの驚きに頭が真っ白になる。そういえば、少し前に近所の農家さんから買って来たキャベツを冷蔵庫に入れず、かごの中に一晚置いたままにした。

あのキャベツにモンシロチョウの幼虫がいた！そして、夜中に出て来て隙間から引き出しに入り、さなぎになった！考えられないことではない、が。まじまじとさなぎを見てみると、生まれたばかりの黄緑色のなんてきれいなこと！若草に近い黄緑色なのは、アオムシの時代に食べたキャベツの色。自然界にある色って、実は感動的に美しい。

ところで、どうしよう。こんな所では家族の誰かがつぶしてしまうのは目に見えている。取って避難させたい。落ちたさなぎにはポケットのような物を作って入れてあげるとちゃんと羽化すると聞いたことがあるが、ポケットってどんな風に？で、検索。「紙で逆円錐のようなポケットを作り、セロテープでどこかに固定する」な～んだ、簡単、簡単。では、まずさなぎを外す。うわーっ！なにこれー、さなぎがすごい速さでピコピコ動くー！全身鳥肌（汗）サナギッテウゴカナインジャナカッタノ？

その後ポケットに収まったさなぎは、さっきの激しい動きはなかったかのように、置物のように静かになった。ポケットは家族が気付くやすいように玄関の花瓶にくっつけた。春になったら蝶になれるだろうか。初めて見たあの動きはショックだったが、おさまった今、あのピコピコ動きは「生きているよ」と懸命に自己主張している蝶の生命のエネルギーだと思えてくる。

さて、そうこうしているうちに一冊の本に出会った。日高敏隆著「春の数えかた」。この本の「モンシロチョウの一年の計」に興味深いことが書かれていた。モンシロチョウはさなぎで冬を越すものと、幼虫のまま冬を越すものがある。どちらになるかは20度という気温が境目になるという。一旦さなぎになると休眠から醒めるためには一定期間寒さにふれる必要があり、幼虫のまま冬を越したものは暖かくなってからさなぎになる。そして、結果的にはどちらも同じ頃に蝶になる。東京ではみんな越冬さなぎ派だろうけれど、四国や九州などでは冬の幼虫もいるそうだ。また、気温で春を知るモンシロチョウに対し、ナミアゲハは日長（昼の長さ）で知る。つまり、アゲハのさなぎの置き場は気温を気にしないでいいってことか。

さなぎとの出会いから、身近に感じられた本。「春の数えかた」は、叙情的な題名にひかれて手にしたが、読んでみると昆虫学者の目線で書かれた専門的な、生命の賛美が描かれた本であった。ぜひご一読あれ。



(出典：日高敏隆著 「春の数えかた」新潮社)

お便りが届きました。

キアゲハの観察日記

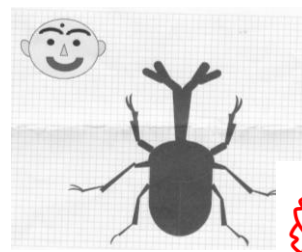
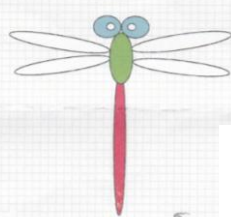


8/13 ちょうにへんしんしたよ。



エクセルで描いた昆虫の絵も届きました。

できたよ、とんぼ



早速、家でエクセルに挑戦しました。初めてエクセルをひらいた子どもたちでしたが、翌日には一人でトンボをつくっていました。

お便りありがとうございました。